

安芸地域アクションプランの 進捗状況確認資料

安 芸 地 域 本 部
令和8年1月20日（火）

安芸地域アクションプランの進捗状況確認資料

R8. 1. 20

安芸地域本部

1 地域アクションプランの令和7年度の実施状況及び令和8年度の展開(総括)

(1) 総評

令和7年度は、全20項目のアクションプランごとに実行支援チームを編成し、市町村や事業者と事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度等を活用しながらそれぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めている。

また、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みと歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた加工体制の整備・強化や販路拡大の取り組みを継続するとともに、道の駅・直販所を核とした地域の活性化にも引き続き取り組んでいく。

農業分野

地域ぐるみでユズの有機栽培に取り組んでいる馬路村は、令和6年4月に高知県第1号となるオーガニックビレッジ宣言を行い、国内外に村を売り出す取り組みを進めている。

令和8年度は、新商品の開発や既存商品のブラッシュアップを行う等、新規顧客層の獲得に向けた取り組みを強化していく。

林業分野

森の恵みである木材や木製品について、令和6年12月に馬路村の木製品がウッドデザイン賞(大阪・関西万博特別賞)を受賞したことをSNS等で情報発信し、国内外への新たな販路拡大を進めている。また、経営コンサルタントの活用等による経営体質の強化に取り組んでいる。

令和8年度は、アドバイザー制度を活用した新商品の開発や、商談会、展示会への出展等に取り組む、国内外への販路開拓を強化していく。

水産業分野

地元漁業や近海まぐろはえ縄漁による水産物(低利用魚を含む)を活用した加工品の製造体制の強化や、商談会への積極的な参加など販売促進に取り組み、高付加価値化及び漁業者の所得向上を図っている。

また、管内の複数の加工事業者において新たな加工場の整備に向けた取り組みを進めるとともに、高度な衛生管理体制下での地元水産物の加工品製造と販売拡大に取り組んでいる。

令和8年度は、加工事業者による加工場の整備を進めるとともに、引き続き新商品の開発に取り組み、販路開拓を強化していく。

商工業分野

道の駅や農産物直販所等において、直販所交流による品揃えの充実、ECサイトの活用による販売拡大等の取り組みを進めている。

また、観光分野とも密接に連携し、直販所等のさらなる活性化と地域の中心市街地に賑わいと活力を呼び戻すための取り組みを進めている。

安田町では、町外から移住してきた加工事業者が、本年度から事業を開始したことにより、やすだ資源を生かした新商品の製造・販売につながっている。

令和8年度は、奈半利駅構内にある物産館無花果のリニューアル及び道の駅への登録を進めるとともに、地域資源を生かした加工品の開発や、商談会への参加、SNSを活用した情報発信等に引き続き取り組んでいく。

観光分野

(一社)高知県東部観光協議会を中心に市町村や関係団体、事業者等と連携して、教育旅行等の受入基盤づくりを進めるとともに、周遊促進商品やご当地グルメを組み込んだツアー商品の造成等、地域資源を生かした観光商品化に取り組んでいる。

また、市町村においては、国や県の事業を活用して北川村モネの庭をはじめとした観光資源等の磨き上げやデジタルマップを活用したスタンプラリー等、滞在延長や周遊促進につながる取り組みが進んでいる。特に、開園25周年記念企画を展開しているモネの庭の入園者数が好調を維持しているほか、県東部の主要施設の入込数も概ね前年を上回る傾向となってきた。

(一社)高知県東部観光協議会では、エリア内の資源や魅力をPRするため、県や徳島県と連携した大阪・関西万博等への出展や、SNSでの観光情報の発信等、県内外へのプロモーションを強化することで、交流人口の創出・拡大を図っている。

さらに、令和8年度は、宿泊施設を核とした周遊促進事業や、高知龍馬空港の国際線ターミナルのオープンに連動したコンテンツ開発等のインバウンド対応の強化に取り組んでいく。

[重点] APNo. 5 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大

＜安芸地域本部＞

分野/実施地域	水産業/室戸市、東洋町、奈半利町、 田野町、安田町
実施主体	◎(株)美阿丸、◎(有)タカシン水産(佐喜浜工場)、 ◎(有)山本かまぼこ店、(株)岡水産 他
APへの位置付け	H21.4月

指標	出発点 (R4)	第5期(R6~R9)					評価※ (達成率)
		R6実績	R7実績	R7目標	R8目標	R9目標	
漁業者による 加工品販売額	90万円	767万円	159万円 (4月～9月)	500万円	600万円	700万円	D (63.7%)
水産加工業者 の販売額	2.3億円	2.0億円	0.25億円 (4月～5月)	2.6億円	2.8億円	3.0億円	D (58.5%)

※R7(目標)に対するR7(実績)の達成見込み **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

事業概要

芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。

主なスケジュール	R7	R8	R9
製造販売	商品開発・販路拡大 衛生管理体制の構築		
施設整備 (株)岡水産	事業計画・実施設計	加工場整備	加工・物販開始

ω

現状と課題

(1) 漁業者による加工品の製造販売

○(株)美阿丸

【現状】

- ・加工場(R5.2月建設)における商品開発・試作
- ・ECサイトによる本マグロやカツオの販売が好調

【課題】

- ・販路開拓

(2) 水産加工業者による加工品の製造販売

【現状】

- ・ペットフード製造のための加工場整備(R7.8月建設)と販路開拓 ((有)山本かまぼこ店)
- ・新加工場整備に向けた事業計画の策定((株)岡水産)

【課題】

- ・衛生管理体制の強化
- ・冷凍食品や増産等の市場ニーズに対応した施設整備が必要((株)岡水産)

R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

(1) 漁業者による加工品の製造販売

○(株)美阿丸

- ・地元及び自社内での原魚調達による加工品製造の強化
- ・適切な衛生管理の実施
- ・飲食店等、小規模事業者を主な対象とした販路開拓



(株)美阿丸の加工場

(2) 水産加工業者による加工品の製造販売

○(有)タカシン水産

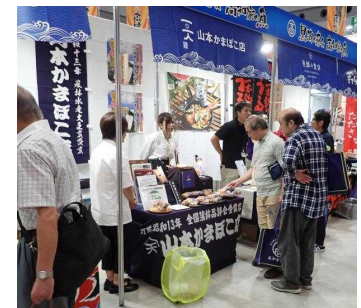
- ・定置網漁で漁獲される魚(シラ・沖サワラ・ブリ等)を使った商品開発
- ・衛生管理体制の強化に向けた新たな加工場への移設に関する検討

○(有)山本かまぼこ店

- ・海外輸出を含めた販路開拓

○(株)岡水産

- 新** 市場ニーズに対応した多機能な加工場の整備(産振補助金活用予定)



[重点] APNo.9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進 ＜安芸地域本部＞

分野/実施地域	商工業 / 奈半利町
実施主体	◎(一社)なはりの郷、◎奈半利町、奈半利なんでも市加工グループ、NCL48、JA高知県(安芸地区)、なはり浦の会
APへの位置付け	H26.4月

第5期(R6~R9)							評価※ (達成率)
指標	出発点 (R4)	R6実績	R7実績	R7目標	R8目標	R9目標	
物産館無花果の売上高	3,302万円	3,973万円	3,258万円 (4月~11月)	4,395万円	4,835万円	5,000万円	S (111.2%)
農水産加工施設の店舗売上高	1,712万円	1,861万円	1,483万円 (4月~11月)	1,925万円	2,002万円	2,100万円	S (115.6%)
JA加工施設(奈半利味噌)の売上高	843万円	852万円	548万円 (4月~12月)	895万円	913万円	930万円	C (81.7%)
奈半利町観光入込数	50千人	52千人	41千人 (4月~12月)	53千人	54千人	55千人	A (103.1%)

※R7(目標)に対するR7(実績)の達成見込み **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

事業概要

集落活動センターなはりの郷が中心となり、地域食材を活用した特産品の開発・販売を促進して地産外商を強化するとともに、海浜センターや地域資源(生活体験学校等)を活用した体験型観光を推進することにより、交流人口の拡大を図る。



主なスケジュール	R7	R8	R9
地産外商体制の強化	物産館リニューアル基本計画	実施設計、着工	運営開始
	新商品開発		販売戦略・磨き上げ
体験型観光の推進	他団体協議・人材確保の仕組みづくり		
		旧加領郷小設計、工事	運営開始

現状と課題

【現状】

- ・「なはりの郷を核とした地域振興プロジェクト」会議の開催、経営理念、事業戦略等を策定(R5~)
- ・物産館無花果リニューアルの検討
→基本計画の策定(R7)
- ・不耕作地対策事業によるイチジク作付面積の拡大
H28:0a → R7:45a
- ・イチジクを活用した加工品の開発(R5~)
→試作品を9種製造
- ・ミタニ建設工業(株)と包括連携協定を締結(R5)

【課題】

- ・新加工品のPR
- ・出口戦略の検討
- ・人材不足

R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

(1)地産外商体制の強化

＜関係者の連携による販売商品の充実＞

- 新**・物産館無花果のリニューアル(産振補助金活用予定)

(2)一次産業の振興

＜特産品の生産強化＞

- ・施設園芸ハウス(ナス)における農作業研修生の確保、育成
- ・移住フェアへの参加
- ・イチジクの生産から加工、販売までを実施



(3)体験型観光の推進

- ・加領郷小学校閉校跡施設の活用
→実施設計、着工
- ・地域おこし協力隊制度を活用した人材確保の仕組みづくり



分野/実施地域	観光/奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村
実施主体	◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会
APへの位置付け	H21.4月

第5期(R6~R9)							評価※ (達成率)
指標	出発点 (R4)	R6実績	R7実績 (8月末)	R7目標	R8目標	R9目標	
中芸地域主要施設 訪問者数	525,906人	507,647人	240,909人	559,000人	559,000人	570,000人	A (103.4%)

※R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満

事業概要

日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。

5

主なスケジュール	R7	R8	R9
交流人口拡大に向けた仕組みづくり	商品やツアー開発	受入体制充実及び情報発信等	
日本遺産サミット開催に向けた対応	日本遺産サミット開催に向けた取り組み		サミット開催
体制の強化	体制の再構築	地域商社もしくはDMO設立に向けた取り組み	

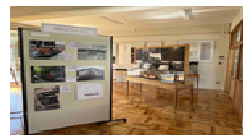
現状と課題

【現状】

- ・日本遺産認定(H29)
- ・日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会発足(R4)
- ・ゆずロードミュージアム開館(R5)
- ・「第1回森林鉄道サミットin高知&中芸日本遺産フェスティバル」開催(R5)
→阿里山林業鉄道(台湾)関係者を招へいし交流開始
- ・中芸日本遺産ウォーク 参加者数:92名(R6)
- ・ゆずはじまる祭り 参加者数:約4,500名(R7)
- ・体験プログラムイベント「ゆずFeS」 参加者数:延べ168名(R7)
- ・日本遺産サミット企画部会(仮)発足(R7)

【課題】

- ・観光コンテンツの磨き上げ
- ・旅行商品のプロモーション
- ・地域内外への情報発信
- ・日本遺産サミット(R9)への対応



R8年度(第5期ver.3)における取り組みの内容

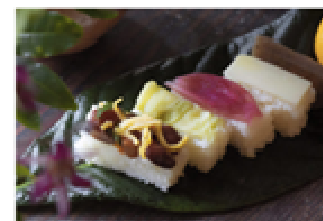
(1)日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大

- ①交流人口拡大に向けた仕組みづくり
 - ・「ゆずFes」等の既存イベントの磨き上げ
 - ・ガイド会員の技術力向上のための講座の開催
 - ・台湾向けミニツアーや観光商品のプロモーション
 - ・ゆずロードミュージアムの土日開館の検討
- ②パンフレットやSNS活用、地域内外のイベント出展等による情報発信
- ③構成文化財説明看板の修繕等
- ④日本遺産サミットの開催(R9)に向けた取組



(2)協議会の体制強化

- ・事務局、中芸5町村及び地元事業者との連携強化
- ・地域商社もしくはDMO設立の検討



(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7到達目標 に対する現状	現時点の進捗状況			R8計画
										達成 見込み (※)	現状分析		
農業	1	「村を売り出す」有機栽培ゆず製品の販路拡大による地域の活性化 (馬路村) 【実施主体】 ・◎馬路村農業協同組合 ・馬路村 全作物の耕地面積に占める有機農業面積の割合が全国1位の81%にのぼる馬路村の有機栽培で育てたゆずを生かした新商品の開発や国内外への販路の拡大により、商品とともに村全体を売り出すことで馬路村ブランドを更に強化し、官民一体となって地域の活性化を図る。	通販売上高 会計年度 1月～12月 8.56億円 (R4)	7.17億円	8.78億円	9億円	1 有機ゆずを生かした商品開発及び人材確保 ・スイーツ部門の商品開発 ・有機栽培を生かした商品開発 ・既存商品のブラッシュアップ ・村内観光客への特別商品の開発 ・地域おこし協力隊制度を活用した営農作業者の募集 ・馬路村地域づくり事業協同組合を活用した職員の募集 2 有機ゆずの認知度の向上と販路拡大 ・オーガニックビレッジ宣言を生かした情報発信 ・県内外のイベントでのPRの実施【10回】 ・SNS、WEB媒体、雑誌、マスメディアを活用した情報発信 ・海外での展示会への参加【3回】 ・DMMスクラッチくじの実施【4/1～5/6】	1 有機ゆずを生かした商品開発及び人材確保 ・新商品「ゆず鍋すーぶゆずこしょう」の販売(10月) ・地域おこし協力隊制度を活用した営農作業者を募るために東京で村独自の移住イベント等を行いPRを実施 →相談件数：2件 ・ゆずの収穫作業についてふるさとワーキングホリデー制度を活用し、収穫作業者を募集 →12名の受入れ 2 有機ゆずの認知度向上と販路拡大 ・馬路温泉でのオーガニック宿泊プランの実施に向けてオーガニックレストランの視察等を実施(7/7～8) 馬路温泉で出す有機ゆずを使ったメニューの試食会を開催(9/10) 「有機ゆずと自然薯づくしのお食事を堪能♪冬の馬路の味覚をお楽しみ」プランの販売開始(10/15) →利用者：38人(11/1～12/31) ・認知度の向上のために以下の取り組みを実施 ①県内外のイベントでのPRの実施：15回(6月2回、7月2回、8月5回、10月1回、9月3回、11月2回) ②海外での展示会への参加：4回(5月、10月、11月2回) ③DMMスクラッチくじ(馬路村農協のゆず製品が当たるオンラインくじ)の実施(4/1～5/6) ④どっぷり馬路村Pop up Festaの開催(10/5) →来場者：約500人	5.68億円 (R7.1月～10月) ・R7到達目標達成率：77.6% ・対前年同期比：109.8%	C	(成果) ・DMMスクラッチくじに取り組むことによって、くじ購入者への認知度向上につながった。 ・どっぷり馬路村Pop up Festaでは多くの子ども連れ家族が来場し、若い世代への認知度向上につながった。 (課題) ・顧客層の高齢化による将来的な売り上げの減少 ・顧客層の高齢化に対応した新規顧客層の開拓 ・集荷・搾汁作業等にかかる人員の確保 (今後の方向性) ・県内外のイベント等による新規顧客の獲得 ・馬路温泉のオーガニック宿泊プランによる新規顧客層の開拓 ・新商品の開発・販売による新規顧客の獲得 ・計量器の改修によるゆずの計量作業の効率化	1 有機ゆずを生かした商品開発及び人材確保 ・若い世代をターゲットにした新商品の開発 ・既存商品のブラッシュアップ ・地域おこし協力隊制度を活用した営農作業者の募集 ・馬路村地域づくり事業協同組合を活用した職員の募集 ・ふるさとワーキングホリデー制度を活用した収穫作業者の募集 2 有機ゆずの認知度向上と販路拡大 ・有機を全面に出した情報発信 ・県内外のイベントでのPRの実施 ・SNS、WEB媒体、雑誌、マスメディアを活用した情報発信 ・海外での展示会への参加	
農業	2	東洋町のボンカン加工品の販路拡大と後継者確保による地域振興 (東洋町) 【実施主体】 ・◎(株)フクチャンFARM ・◎東洋町 ・ボンカン生産者 ・甲浦の果樹仲間 東洋町の特産品であるボンカンを活用した加工品の販路拡大を進めるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保・育成に取り組むことにより、地域振興を図る。	売上高 会計年度 1月～12月 845万円 (R4)	1,095万円	970万円	1,070万円	1 ボンカン加工品の販路拡大 ・既存商品の磨き上げ ・商談会等への参加 ・プロモーション活動の実施 ・東洋町ボンカン振興対策協議会への参画 ・道の駅東洋町での既存商品のPR【通年】 ・とさのさと、ひろめ市場でのボンカン販売会の開催【1月予定】 2 後継者の確保・育成 ・移住フェア等への参加 ・特定地域づくり事業バツグン協同組合との連携【通年】 ・地域おこし協力隊の受入体制の整備 ・指導者の育成及び増員 ・就農希望者に対する園地承継の支援 ・新規就農者(地域おこし協力隊)の技術支援【通年】	1 ボンカン加工品の販路拡大 ・ボンカン振興対策協議会役員会の実施(7月) ・ボンカン振興対策協議会総会の実施(9月) ・道の駅東洋町での既存商品の販売(通年) ・とさのさと、ひろめ市場でのボンカン販売会の実施(R8.1月) ・ボンカンのアロマオイル商品の開発 →ボンカンのアロマオイルの販売開始(8月) 2 後継者の確保・育成 ・農林漁で働(フェア)への参加(10月) ・JOIN移住・交流 & 地域おこしフェア2025への参加(11月) ・特定地域づくり事業バツグン協同組合との連携 ・新規就農者(地域おこし協力隊)の技術支援	430万円 (R7.1月～6月) ・R7到達目標達成率：88.7% ・対前年同期比：106.7%	B	(成果) ・ボンカンのアロマオイルの開発・販売開始により、ボンカン加工品が充実した。 (課題) ・予冷庫購入(甲浦の果樹仲間)のための資金不足 (今後の方向性) ・補助金を活用した予冷庫の購入	1 ボンカン加工品の販路拡大 ・商談会等への参加 ・プロモーション活動の実施 ・東洋町ボンカン振興対策協議会への参画 ・道の駅東洋町での既存商品のPR【通年】 ・とさのさと、ひろめ市場でのボンカン販売会の開催【1月予定】 2 後継者の確保・育成 ・移住フェア等への参加 ・特定地域づくり事業バツグン協同組合との連携【通年】 ・地域おこし協力隊の受入体制の整備 ・指導者の育成及び増員 ・就農希望者に対する園地承継の支援 ・新規就農者(地域おこし協力隊)の技術支援【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標			R9目標	現時点の進捗状況			
			R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状			達成 見込み (※)	現状分析	R8計画		
農業	3	芸西村の白玉糖を活用した地域活性化 (芸西村) 【実施主体】 ・◎芸西村伝承館製糖組合 ・◎集落活動センターげいせい ・芸西村 ・生産者グループ 江戸時代から引き継がれてきた芸西村の白玉糖(黒糖)の品質を向上させ、白玉糖を活用した新商品の開発や販路拡大、商品の磨き上げを行うことにより、認知度の向上と地域活性化につなげる。	伝承館でのサトウキビ取扱量 40.4t (R4)	32.9t	42.0t	44.0t	1 白玉糖の品質及び認知度の向上 ・サトウキビづくりに興味がある人への働きかけ【通年】 ・機材等の更新の検討【必要時】 ・白玉糖の魅力を知らせてもらうための動画作成の検討(集落活動センターげいせい)【年度内完成予定】 ・高知市で行われる日曜市での白玉糖の広報【1~2月】 2 白玉糖を使った特産品づくりと外商活動 ・食のイノベーション商品づくりワーキングでブラッシュアップした商品の販売【5月以降】 ・集落活動センターげいせいの加工品販売のためのECサイトの作成、販売【R8.2月以降継続販売】 ・加工品のパッケージデザインの検討【~5月】	1 白玉糖の品質及び認知度の向上 ・白玉糖の魅力を知らせてもらうための動画を作成(集落活動センター推進事業費補助金(継続・発展支援事業)) →年度内完成 ・関西万博での白玉糖加工品販売(8/23) →白玉糖の認知度の向上に寄与 ・ホームページ作成のため、よろず支援拠点のアドバイザーに相談(5/30、6/20) →年度内完成を目指し、画像データ等作成中(集落活動センター推進事業費補助金(継続・発展支援事業)) ・白玉糖加工品等による、観光列車乗客を対象としたおもてなし実施(12/19) 2 白玉糖を使った特産品づくりと外商活動 ・昨年度食のイノベーションで検討した加工品の新パッケージデザインを印刷(5月) ・食のイノベーション「初めての外商講座」参加(6/5) →販路拡大に向け、県外の卸業者を介して商談中 ・集落活動センターげいせいの白玉糖を使った加工品販売のためのECサイトを作成 →年度内販売開始を目指し、画像データ等作成中 ・パンフレット作成のため、よろず支援拠点のアドバイザーに相談(7/3) →年度内完成を目指し、画像データ等作成中(集落活動センター推進事業費補助金(継続・発展支援事業))	- (R8.2月以降に集計・公表)	-	(成果) ・白玉糖の魅力を知らせてもらうための動画やホームページ等を作成しており、年度内の完成を予定している。 ・白玉糖を使った加工品販売のためのECサイトの作成に取り組んでおり、年度内に販売を開始する。 (課題) ・高齢化等によるサトウキビの生産者の減少 ・体験プログラムの認知度向上 (今後の方向性) ・サトウキビづくりに興味がある人への働きかけ ・放棄されたサトウキビ畑の新たな生産者による活用の検討 ・夏休み中の小学生向け体験プログラム案の検討 ・体験プログラムの広報が不足しているため、広報チラシの提案	1 白玉糖の品質及び認知度の向上 ・サトウキビづくりに興味がある人への働きかけ【通年】 ・SNS等による白玉糖に関する動画等の発信【通年】 ・夏休み中の小学生向けの体験プログラム案の検討【4月~7月】 ・高知市の日曜市での白玉糖の広報【1~2月】 2 白玉糖を使った特産品づくりと外商活動 ・集落活動センターげいせいの白玉糖を使った加工品販売のためのECサイトでの本格販売開始【4月~】 ・パンフレットや動画を活用した外商活動【通年】
		体験プログラム参加人数 49人 (R4)	12人	130人	200人	24人 (R7.4月~11月) ・R7到達目標達成率：27.7% ・対前年同期比：240.0%	D					
		白玉糖加工品販売額(集落活動センターげいせい) 142万円 (R4)	356万円	165万円	180万円	298万円 (R7.4月~12月) ・R7到達目標達成率：240.3% ・対前年同期比：114.6%	S					

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】			【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
								R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析		R8計画
林業	4	馬路の林業加工品の販売促進 (馬路村) 【実施主体】 ・◎(株)エコアス馬路村 ・◎馬路林材加工協同組合 ・馬路村森林組合 販路の拡大や新商品の開発、生産性の高い加工機械の導入等により木材や木製品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営の安定化を図る。	木製品 出荷額 (会計年度 4月～3月 「(株)エコアス馬路村、馬路林材加工協同組合」) (会計年度 1月～12月 「馬路村森林組合」) 2.53億円 (R4)	1.59億円	2.53億円	2.53億円	1 営業力の強化 ①販路の開拓 ・ウェブサイトの更新等 (林材・エコ) ・ホームページの開設等 (森組) ②新商品開発 ・デザイナーを活用した新商品開発及び既存商品の改良等 (エコ) 2 収益性の改善 ①加工機器の導入 ・老朽化した加工機器の導入を検討 (森組) ・商品の量産化に向けた、ミシン等の導入を検討 (エコ) ②経営体質の強化 ・経営コンサルの活用と固定費の削減による経営体質を強化 (林材)	1 営業力の強化 ①販路の開拓 ・ウェブサイトの更新等 情報発信基盤等を定期的に更新 →特集ページの強化、海外販売への対応(環境ECサービス)、商品の充実(万博への展示等)、実績紹介やコラム、イベント情報等 →海外(台湾)との継続取引、新たにキャンプサイトの宿泊棟等の取引開始予定(R8.2月～) →関東圏の住宅市場の流通へ向けた販路拡大(11月～R8.1月) →海外販売の実施(12月：5カ国(韓国・アメリカ・台湾等)) ・ホームページの開設等 新規ホームページを開設(R8.3月予定) →担い手対策とあわせたホームページの開設により情報発信を強化(林業労働環境改善事業費補助金(9月～R8.3月)) ・高知港振興組合への加入(12月) →高知新港に寄港するクルーズ船の乗客に対して、自社製品が販売可 ②新商品開発 ・デザイナーを活用した新商品開発及び既存商品の改良等 →新商品のうちを3種類デザイン化(6月) 2 収益性の改善 ①加工機器の導入 ・老朽化した加工機器の更新を検討したが、本年度は維持修繕とし、更新は見送り(10月) ・商品の量産化に向けたミシン等の新規導入を検討したが、本年度は新規導入は見送り(9月) ②経営体質の強化 ・経営コンサルによるモニタリングを実施(12/17)	1.27億円 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：75.6% ・対前年同期比：124%	C	(成果) ・海外(台湾)向け別荘棟の継続した取引案件に加え、新たにキャンプサイトの宿泊棟(5棟)、シャワー室、管理棟を受注し、取引先の維持と関係強化を図った。(林材) ・新商品として県内出身の書家のデザインした3種類のうちわが完成し、販売開始(8月～) ・高知港振興組合の会員に入会できたことから、高知新港へ寄港するクルーズ船乗客を対象に製品を販売できることとなった。 ・木工連主催の木製品展示場「らっとホームMoku」でモナカバック及びモダンうちわを展示販売開始(10月～)(エコ)	1 営業力の強化 ①販路の開拓 ・ウェブサイトの更新等【年2回予定】(林材・エコ・森組) ②新商品開発 ・アドバイザー制度を活用した新商品の開発【通年】(林材) 2 収益性の改善 ①加工機器の導入 ・老朽化した加工機器等の更新を検討【通年】(森組) ②経営体質の強化 ・経営コンサルタントの支援を通じて得た手法を活用し、自主的に実践・検証する【四半期毎】(林材)
19人 (R7.12月時点) ・R7到達目標達成率：90.5% ・対前年同期比：95.0%	B											

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
水産業	5	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 (室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町) 【実施主体】 漁業者： ・〇(株)美阿丸 ・土佐室戸鮭軍団 ・室戸市定置漁業振興協議会 ・中芸定置網漁業振興協議会 水産加工業者： ・〇(有)タカシン水産(佐喜浜工場) ・〇(有)山本かまぼこ店 ・漁師の食卓 ・(株)岡水産 芸東地域の定置網漁獲物や近海マグロを中心に、漁業者や水産加工業者による加工品の開発・製造・販売を進め、付加価値向上・漁業所得の向上につなげる。	漁業者による加工品販売額 会計年度 9月～8月 90万円 (R4)	809万円	500万円	700万円	1 漁業者による加工品の製造販売 【新商品の開発やネット販売による販路拡大】 <<(株)美阿丸>> ・販路開拓の体制強化 【加工場における製造・販売体制の確立】 <<(株)美阿丸>> ・地元及び自社内での原魚調達による加工品製造の強化 ・適切な衛生管理の運用【通年】 ・小規模事業者を対象とした販路開拓 【水産物のPR】 <<土佐室戸鮭軍団>> ・「マグロ解体ショー」やマグロ加工品の販売等による広報	1 漁業者による加工品の製造販売 【新商品の開発やネット販売による販路拡大】 <<(株)美阿丸>> ・ECサイトに店舗し、本マグロやチャンジャを販売 【加工場における製造・販売体制の確立】 <<(株)美阿丸>> ・マグロを用いた新商品開発の取り組み 【水産物のPR】 <<土佐室戸鮭軍団>> ・活動に向けて準備中	159万円 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率：63.7% ・対前年同期比：56.3%	D	(成果) ・ECサイトへの出店を継続し、商品数を充実させることで販売額の増加に寄与している。 (課題) ・新商品の開発 ・販路開拓の継続 (今後の方向性) ・試作品づくりの継続 ・商談会の参加や広報活動に向けた取り組み	1 漁業者による加工品の製造販売 【新商品の開発やネット販売による販路拡大】 <<(株)美阿丸>> ・販路開拓の継続【通年】 【加工場における製造・販売体制の確立】 <<(株)美阿丸>> ・新商品開発の継続【通年】 ・販路拡大の継続【通年】 【水産物のPR】 <<土佐室戸鮭軍団>> ・「マグロ解体ショー」やマグロ加工品の販売等による広報
							2 水産加工業者による加工品の製造販売 【生産性の向上と販路拡大】 <<(有)タカシン水産>> ・衛生管理体制強化に向けた新加工場整備・移設に関する検討 ・積極的な人材募集の継続【通年】 ・新商品開発、販路拡大【通年】 <<(有)山本かまぼこ店>> ・ペットフード製造のための加工場整備 国事業再構築補助金【10月稼働を予定】 ・県内事業者とのペットフード商品開発 ・衛生管理体制強化に向けた新加工場整備に関する検討 ・商談会等への出展【通年】 【施設整備】 <<(株)岡水産>> ・市場ニーズに対応した多機能加工場の整備	2 水産加工業者による加工品の製造販売 【生産性の向上と販路拡大】 <<(有)タカシン水産>> ・新商品開発に向けた継続的な取り組み ・人材募集に向けた継続的な取り組み <<(有)山本かまぼこ店>> ・R6年度に着工したペットフード加工場は、建築確認が終了(8月)稼働開始(12月) ・インドネシアでの商談会に出展 ・英語版HPの作成を検討 →事業戦略等推進事業費補助金の活用を予定 R8.1月に補助金審査会 【施設整備】 <<(株)岡水産>> ・東洋町起業支援事業費補助金を活用し、加工場整備計画のブラッシュアップに着手(7月～) ・県内水産加工施設の視察を実施(産振アドバイザー制度の活用)(9月) ・事業計画書の作成(12月)及び産振補助金審査会(R8.2月予定)	0.25億円 (R7.4月～5月) ・R7到達目標達成率：58.5% ・対前年同期比：79.8%		D	(成果) ・(有)山本かまぼこ店の加工施設整備(ペットフード加工場)が進展し、新たな取り組みとして、販売額の増加が期待できる。 (課題) ・不漁による加工原魚の不足 ・(有)タカシン水産佐喜浜工場における人手不足 (今後の方向性) ・(株)岡水産の加工場整備

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	6	道の駅キラメッセ室戸を核とした 地産地消・外商の拡大 (室戸市) 【実施主体】 ・◎協同キラメッセ室戸(有) ・◎室戸市 道の駅キラメッセ室戸「楽市」「食 遊」を拠点とし、地域産品の充実 や販売、食の提供を促進するととも に、周辺施設と連携することで、地 産地消・外商及び交流人口の拡 大を図る。	売上高 4.63億円 (R4)	4.46億円	4.9億円	5.2億円	1 農作物の確保 ・庭先集荷ルート拡大の検討 ・直販所連携の強化 2 加工品の開発、販路拡大 ・人員確保の強化 ・ふるさと納税制度の活用【通年】 ・直販所連携の強化 ・オープン30周年記念イベントの開催【10/10 ～10/12】 3 レストラン「食遊」の充実に伴う地産地消・外商 の推進 ・地場産品を活用したメニュー開発	1 農作物の確保 ・庭先集荷ルートの見直し、弁当配達を活用したテスト事業実施 の検討 ・直販所連携の実施 →道の駅たかの、さくら市、道の駅東洋町等と連携し、商品不足 を解消 →新たにファーマーズマーケットひなた(土佐市ドラゴン広場)との 取引開始 ・集落活動センターとの連携 →集落活動センターひなたぼっこのぼたなす、レッツ郷の芋や トウモロコシ等を販売 2 加工品の開発、販路拡大 ・ふるさと納税返礼品の発送 →野菜定期便の注文数：約3,000件(1ヶ月) →定期便へのぼたなす(集落活動センターひなたぼっこ)の 常時取扱を開始 ・室戸ジオパーク推進協議会ECサイト「室戸ひと、進む。」の活用 ・道の駅たかの主催イベント「12周年記念感謝祭」への出店し、 地元事業者の加工品のほか自社商品「室戸のきらめき」等を 販売 ・オープン30周年記念イベントの開催(10/10～12) 3 レストラン「食遊」の充実に伴う地産地消・外商の推進 ・「春祭り」において、春ぶりをを使った定食やどんぶりを提供 ・ぼたなすのフライ定番メニュー化 ・30周年イベントで復刻メニューの販売	2.61億円 (R7.4月～10月) ・R7到達目標達成率：91.3% ・対前年同期比：105.1%	B	(成果) ・複数の直販所との連携により、農産物の確保や加工品等の 販路拡大につながった。 ・ふるさと納税制度の積極的な活用により外貨獲得につながった。 (課題) ・従業員不足 ・天候不順や農業者の減少に伴う農作物不足 (今後の方向性) ・従業員の積極的な募集 ・庭先集荷ルートの拡大	1 農作物の確保 ・庭先集荷ルート拡大の検討 ・直販所連携の強化 2 加工品の開発、販路拡大 ・人員確保の強化 ・ふるさと納税制度の活用【通年】 ・直販所連携の強化 3 レストラン「食遊」の充実に伴う地産地消・外商 の推進 ・地場産品を活用したメニュー開発	
			レジ通過者数 285,866人 (R4)	267,716人	300,000人	310,000人	165,177人 (R7.4月～10月) ・R7到達目標達成率：94.4% ・対前年同期比：104.5%	B					

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
商 工 業	7	安芸市中心市街地の活性化 (安芸市) 【実施主体】 ・◎安芸商工会議所 ・安芸本町商店街振興組合 ・安芸市 ・For the Future にぎわいと活力のある中心市街地を目指し、地域内外から人が集まる仕組みづくりや中心市街地の魅力を高める取り組みを進めることで商店街や周辺地域の活性化を図る。	空き店舗等を活用した新規開業 2件 (R4)	4件	1件	5件 (R6～9累計)	1 中心市街地のにぎわい創出に向けた取り組み ・第2期振興計画に基づく取り組み実施【通年】 ・第2期振興計画の進捗状況の確認及び見直し【通年】 ・商い甲子園の集客力及び経済波及効果の向上に向けた検討【通年】 ・HPやSNS等を利用した情報発信【通年】 2 空き店舗等を活用した新規開業の促進に向けた取り組み ・空き店舗等情報の収集・提供の継続【通年】 3 推進体制の強化に向けた取り組み ・事業者等連携強化に向けた市内事業者等の交流会等の継続【通年】 ・個店の連携による中心市街地及び周辺地域の周遊促進・消費拡大【通年】 ・第2期振興計画に基づく取り組みの各実施主体の人材育成【通年】	1 中心市街地のにぎわい創出に向けた取り組み ・中心商店街と周辺地域の活性化を図るため、以下の取り組みを実施 ①安芸市中心商店街等振興協議会が安芸高校へ感謝状を贈呈(5/1) ②商い甲子園実行委員会協議を実施：6回 →全国「商い甲子園」大会開催(10/26) →県外を含む3県12高校18チーム112名が出場 ③地域住民や高校生も巻き込んだ各種イベントを実施 →高校生マルシェ出店：4回(8/15、10/25、11/9、12/27) →かがりピー子開催：1回(10/25) →きさらぎ市開催(11/9) ④安芸商工会議所青年部、安芸本町商店街ビアガーデン開催(8/2) ⑤市役所旧庁舎跡地活用に係る地域事業者との意見交換会(8/19) →商店街エリアのにぎわい創出 ・安芸市中心商店街等振興協議会を実施(R8.3月予定) ・安芸本町商店街振興組合や安芸商工会議所、商店街魅力向上委員会のSNSを利用し、積極的にイベントの情報を発信 2 空き店舗等を活用した新規開業の促進に向けた取り組み ・空き店舗バンクを開設し、運用している。【通年】 →登録：10件(うち1件成約済) 2件登録準備中(12月掲載) 3 推進体制の強化に向けた取り組み ・包括連携協定を締結(安芸市・安芸商工会議所、4/24) →各機関で取り組む方向性について確認 ・市内事業者等の情報交換・交流の場「たまり場」実施：7回 →週2回、菓子小売業が開業(4/16～) ・商店街等事業者交流会開催：1回(4/2) →事業者等の有意義な情報交換等による連携強化 ・商店街と連携したスタンブラー事業を実施(10/1～26) →実施店舗：33店舗 ・商工会議所や金融機関、法人会等の共催によるセミナーの開催：7回(参加者：のべ120人)	2件 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率:200.0% ・対前年同期比：66.7%	S	(成果) ・「たまり場」で子どもの遊び場や駄菓子を買うことのできる場所の開店を検討したことにより、既存店舗の軒先を借りて、週2回開店する菓子小売店が開業し、子どもや大人も含めた地域交流の場の創出につながった。(4/16～) ・安芸商工会議所青年部や安芸本町商店街によるビアガーデンや高校生マルシェを開催したことにより、商店街のにぎわいにつながった。 ・全国「商い甲子園」大会と同日に元気館で市主催の元気フェスタを開催したことで、双方のイベントが相互に集客効果を生み出し、来場者数の増加に寄与した。 (課題) ・イベント時の関係機関の連携不足 (今後の方向性) ・イベント時の関係機関の連携強化 ・空き店舗等情報の収集・提供 ・「たまり場」等を活用したイベント開催周知の強化	1 中心市街地のにぎわい創出に向けた取り組み ・第2期振興計画に基づく取り組み実施【通年】 ・第2期振興計画の進捗状況の確認及び見直し【通年】 ・HPやSNS等を利用した情報発信【通年】 2 空き店舗等を活用した新規開業の促進に向けた取り組み ・空き店舗等情報の収集・提供の継続【通年】 3 推進体制の強化に向けた取り組み ・事業者等連携強化に向けた市内事業者等の交流会等の継続【通年】 ・個店の連携による中心市街地及び周辺地域の周遊促進・消費拡大【通年】 ・第2期振興計画に基づく取り組みの各実施主体の人材育成【通年】
		事業者数 95店舗 (R4)	94店舗	95店舗	95店舗		- (R8.6月以降に集計・公表)	-				

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況				
			R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	R8計画							
商 工 業	8	道の駅東洋町を拠点とした地域 振興 (東洋町) 【実施主体】 ・◎東洋町 ・◎指定管理者 (株)FoundingBase ・生産者 ・地域団体 高知県の東の玄関口である東洋 町の観光の窓口及び地元特産品 の販売、飲食施設等の機能を持 つ「道の駅東洋町」を核とした交流 人口の拡大により、地域の活性化 を図る。	売上高 1.86億円 (R4)	2.54億円	2.60億円	3.25億円	1 誘客の促進 ・店内レイアウトの工夫【通年】 ・イベントの実施・誘致【通年】 ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・町内外イベントへの出店 ・特産品の直販所交流による道の駅東洋町の PR ・店舗内商品の充実【通年】 ・直販所交流商談会への参加 2 観光機能の強化 ・グランピング施設の整備【3月末予定】 ・自然休養村の改修【3月末予定】 ・体験プログラムの検討【通年】 ・地域団体との連携【通年】 ・SNSを活用した情報発信【通年】	1 誘客の促進 ・店内クイズラリーの実施 ・季節に応じたイベントの実施(通年) ・県内の道の駅へのイベント出店やオリジナル商品の委託販売 ・オリジナル商品の開発(産振アドバイザー制度を活用)(7月～) ・既存オリジナル商品の常温販売に向けた取り組みの実施 ・レストラン新メニューの提供 2 観光機能の強化 ・キャンプ宿泊者に対してヨガ体験やビーチホッピング利用券の提供を 実施 ・キャンプ料金の改定 ・BBQの食材オプションの充実 ・自然休養村の設計図等の検討	1.56億円 (R7.4月～10月) ・R7到達目標達成率：102.9% ・対前年同期比：104.7%	A	(成果) ・既存オリジナル商品の常温販売が可能となり、売上高の増加に 寄与している。 ・体験メニューが充実したことにより、キャンプ宿泊者が49名増加した。 ・産振アドバイザーの活用により、1件の新たなオリジナル商品の開発 につながった。 (課題) ・繁忙期の人員不足 (今後の方向性) ・SNSを活用した人員募集 ・新しいオリジナル商品の販売	1 誘客の促進 ・店内レイアウトの工夫【通年】 ・イベントの実施・誘致【通年】 ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・町内外イベントへの出店 ・特産品の直販所交流による道の駅東洋町の PR ・店舗内商品の充実【通年】 ・直販所交流商談会への参加 ・オリジナル商品販路拡大のための商談会への 参加【通年】 2 観光機能の強化 ・自然休養村の改修【4月～】 ・自然休養村の運営開始 ・地域団体との連携【通年】 ・SNSを活用した情報発信【通年】	
			来場者数 169,520人 (R4)	187,248人	193,000人	200,000人			112,442人 (R7.4月～10月) ・R7到達目標達成率：99.9% ・対前年同期比：98.3%				B
商 工 業	9	なはりの郷を核とした特産品の販 売促進と体験型観光の推進 (奈半利町) 【実施主体】 ・◎(一社)なはりの郷 ・◎奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・NCL48 ・JA高知県(安芸地区) ・なはり浦の会 集落活動センターなはりの郷が中 心となり、地域食材を活用した特 産品の開発・販売を促進して地産 外商を強化するとともに、海浜セン ターや地域資源(生活体験学校 等)を活用した体験型観光を推進 することにより、交流人口の拡大を 図る。	物産館無花 果の売上高 3,302万円 (R4)	3,973万円	4,395万円	5,000万円	1 地産外商体制の強化 ・イチジクの加工品開発【4月～】 ・商談会等への参加 ・販売戦略の策定【9月～】 ・物産館無花果のリニューアルの検討【9月～】 2 一次産業の振興 ・研修生の確保、育成 ・特産品生産体制の構築 3 体験型観光の推進 ・廃校を活用した宿泊、自然体験メニューの開 発、運営手法、販売戦略を検討 ・観光窓口としての物産館の在り方の検討 【9月～】 ・地域おこし協力隊制度を活用した人材確保 の仕組みづくり	1 地産外商体制の強化 ・新たな加工品の方向性について協議 (高知地域資源活用・地域連携サポートセンター事業の活用) →試作品を9種製造(4月～12月) ・リニューアルに伴う基本計画策定 (産振補助金(ステップアップ事業)) →プロポーザルを実施し契約事業者決定(8月) →なはりの郷、物産館無花果の財務分析(11月) 2 一次産業の振興 ・移住フェアへの参加 →高知暮らしフェア 2025 夏(6月)に参加し、22組29名対応 →東部移住フェア(9月)に参加し、6組8名対応 →人口減少対策総合交付金を活用した「なはり就農体験・交流 促進拡大事業」を利用し、20代2名が来町(12月) ・加領郷魚舎の活用について検討(9月～) →漁協と協議：3回(9月～11月) →全員協議会で説明：1回(11月) 3 体験型観光の推進 ・PFIを生かした加領郷小学校閉校跡施設の公共施設等運営事業 →R7年度PFI事業にかかる実施方針の策定見通しを公表(7月) →公募型プロポーザルの募集開始(8月～) →公共施設等運営事業提案審査委員会を開催(10月) ・物産館無花果リニューアルに伴う基本計画策定 (産振補助金(ステップアップ事業)) →プロポーザルを実施し契約事業者決定(8月) →物産館無花果を軸にしたモニターツアー案を作成(11月)	3,258万円 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：111.2% ・対前年同期比：115.1%	S	(成果) ・高知地域資源活用・地域連携サポートセンター事業の活用による 新加工品の試作を通じ、物産館無花果も独自でカフェメニューを拡 充したり、イチジクの加工品(ドライイチジク)を開発する等、経営意識 の醸成に寄与している。 ・イチジクの作付面積の拡大 R5：33a→R7：45a (課題) ・新加工品のPR、出口戦略の検討 ・顧客の分析、ターゲットの設定 ・加領郷フィッシュeriesが魚舎直売所から撤退 ・人材不足 (今後の方向性) ・物産館無花果のリニューアルと併せた新加工品の情報発信の強化 ・魚舎直売所の活用を検討 ・地域おこし協力隊のミッション拡充、広報強化(スマウト、ノート)	1 地産外商体制の強化 ・物産館無花果のリニューアル 入札の実施【9月】 設計・工事【1月～3月】 ・新商品の宣伝強化 SNSにおける情報発信【通年】、 イチジク収穫直前に新聞社へ投げ込み【8月】 2 一次産業の振興 ・研修生確保、育成 ・特産品生産体制の構築 ・移住フェアへの参加【4回】 ・加領郷魚舎の活用 新体制での運営開始【4月】 3 体験型観光の推進 ・加領郷小学校閉校跡施設の活用 入札の実施【6月】 設計・工事【8月～2月】	
			農水産加工 施設の店舗 売上高 1,712万円 (R4)	1,861万円	1,925万円	2,100万円			1,483万円 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：115.6% ・対前年同期比：120.1%				S
			JA加工施設 (奈半利味 噌)の売上高 843万円 (R4)	852万円	895万円	930万円			548万円 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：81.7% ・対前年同期比：87.3%				C
			奈半利町 観光入込数 50千人 (R4)	52千人	53千人	55千人			※原料(米)不足のため 41千人 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：103.1% ・対前年同期比：100.0%				A

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
商 工 業	10	道の駅「田野駅」の機能強化に向けた取り組み (田野町) 【実施主体】 ・道の駅指定管理者(たの未来プロジェクト(株)) ・田野町 ・加工施設指定管理者(中芸食材工房) ・生産者組織 ・地域団体 地域の特産品の販売や、観光情報の発信等の役割を担っている田野駅において、「阿南安芸自動車道」の整備を見据え、田野駅が観光の目的地や、道路利用者にとって安芸以東の地域における安心して休憩できる場となるよう再整備を行う。 再整備にあたっては、令和5年度に策定した基本計画を元に、観光客や道路利用者だけでなく、地域のあらゆる世代が活躍する舞台となる地域拠点や地域コミュニティを目指していく。	店舗売上高 会計年度 1月～12月 2.7億円 (R4)	2.8億円	3.0億円	3.3億円	1 機能強化のための施設等整備 ・PFIアドバイザーとともにPFI導入の検討 2 直販・飲食機能及び運営体制の強化 ・出品事業者ヒアリング及び運営事業者の選定 3 加工品の開発・販売の強化 ・事業承継支援制度の紹介【通年】 4 情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ・交流人口拡大のための地域イベントの検討	1 機能強化のための施設等整備 ・アドバイザーとの協議：2回(4月～8月) →サウンディングに向けて方向性等を決定 →サウンディング実施(9月) ・役場内の方向性を確定(12月) 2 直販・飲食機能及び運営体制の強化 3 加工品の開発・販売の強化 ・事業承継支援制度の広報を実施(4月～12月) ・田野町特産品開発支援事業費補助金：5件(12月) 4 情報発信機能の強化・交流人口の拡大	2.1億円 (R7.1月～9月) ・R7到達目標達成率：91.3% ・対前年同期比：105.0% 178千人 (R7.1月～9月) ・R7到達目標達成率：87.7% ・対前年同期比：102.3%	B B	(成果) ・町長交代により、再整備の方向性を大幅に変更する必要があったが、アドバイザーとの協議も重ね、意思統一を図ることができた。 (課題) ・出品事業者の確保 (今後の方向性) ・要求水準書の作成と造成工事の実施 ・事業承継支援制度に関する情報発信の強化	1 機能強化のための施設等整備 ・要求水準書の作成 ・造成工事の実施 2 直販・飲食機能及び運営体制の強化 ・出品事業者ヒアリング及び運営事業者の選定 3 加工品の開発・販売の強化 ・事業承継支援制度の広報【通年】 ・田野町特産品開発支援事業費補助金の広報【通年】 4 情報発信機能の強化・交流人口の拡大 ・交流人口拡大のための地域イベントの検討	
商 工 業	11	やすだ資源を生かした新商品開発による地産外販の推進 (安田町) 【実施主体】 ・安田町 ・生産者 ・製造販売者 安田町内の地域資源を生かした新商品開発に取り組み、販路開拓・拡大による地産外販を推進する。	加工事業 参入事業者 0件 (R4)	1件	1件	3件 (R6～9累計)	1 地域資源を生かした加工品の製造・販売 ・原材料確保のための仕組みづくり検討【通年】 ・「安田の白い夢」製造再開のための試作開始【秋以降】 2 新商品開発に向けた新たな地域資源の掘り起こし ・安田町内の作物生産者の紹介【通年】 ・安田町産の作物を活用した新商品開発の着手【4月以降】	1 地域資源を生かした加工品の製造・販売 ・加工事業者が安田町へ移住・加工開始(4月) →製造・販売に着手 ・原材料確保(地域の生産者へ挨拶) →取引成立：2件(完全天日塩、酪農) ・「マンガー大福」の試作開始(7月) →餅米の価格高騰を踏まえた商品化に向け検討 2 新商品開発に向けた新たな地域資源の掘り起こし ・集落活動センターやすだが収穫した米の納品 →仕出しのお弁当等への利用を検討中 ・やすだ資源を生かした新商品の誕生：2件 (1)完全天日塩を使った「あんぱたちーずさんど」 (2)牛乳を使った「米粉のしゅおんけーき」	1件 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：100.0% ・対前年同期比：100.0% 2件 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：100.0% ・対前年同期比：200.0%	A A	(成果) ・加工事業者が安田町へ移住し、商品加工を開始したことにより、やすだ資源を生かした新商品の製造・販売につながった。 (課題) ・新商品の開発におけるコスト(原材料の仕入れ、商品試作、パッケージ製作等様々な工程を要するため) (今後の方向性) ・新商品開発件数の継続的な目標達成のための、関係者が連携したコストを踏まえた開発の推進	1 地域資源を生かした加工品の製造・販売 ・「マンガー大福」の商品化【4月以降】 ・県内外の商談会への出店【通年】 2 新商品開発に向けた新たな地域資源の掘り起こし ・安田町産の作物を活用した新商品開発【通年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】				
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標			R9目標	R7取り組み状況	現時点の進捗状況					
										R7到達目標 に対する現状		達成 見込み (※)	現状分析	R8計画	
商 工 業	12	地場産品直販所「かつば市」を核とした地域活性化 (芸西村) 【実施主体】 ・◎(有)かつば市 ・芸西村 ・生産者グループ 地場産品直販所「かつば市」において、安定供給の仕組みを作るとともに、他の直販所との商品交流や、魅力的な商品づくりに取り組むことにより、地場産品の消費拡大を進め、地域経済の活性化につなげる。	かつば市 売上高 1.62億円 (R4)	1.72億円	1.88億円	2.07億円	1 魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み ・顧客のニーズの聞き取り【通年】 ・連続テレビ小説「あんぱん」のロケ地である琴ヶ浜海岸を訪れる観光客に、かつば市へ足を伸ばしてもらう方法の検討、実施 2 品揃えの充実及び外商活動 ・商品増加のため、家庭菜園をしている方への呼びかけの継続【通年】 ・ふるさと納税返礼品準備のための作業場拡充【年度内】 ・調理設備を活用したい人の発掘【通年】	1 魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み ・顧客の動線等を考えた配置換え等を実施(5月中下旬) →木工品等手仕事の売上げ増(対前年同期比：120%) ・連続テレビ小説「あんぱん」のロケ地である琴ヶ浜海岸を訪れる観光客に、かつば市へ足を伸ばしてもらう方策の実施 →観光客の周遊促進につなげるため、デジタルスタンプラリーを実施(9月～12月) 2 品揃えの充実及び外商活動 ・商品増加のため、家庭菜園をしている方等への呼びかけ →新規納品者の増加 ・ふるさと納税返礼品準備のための作業場の拡充 →年度内完成予定	1.34億円 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：95.0% ・対前年同期比：106.3%	B	(成果) ・連続テレビ小説「あんぱん」にあわせ、観光パンフレット置き場を拡充させ、周辺観光への誘導につながった。 ・商品棚の配置換えにより、木工品等手仕事品がまとまった配置になり、売上げが増加した。 (課題) ・調理設備の活用日数の増加 ・ふるさと納税返礼品準備のための作業場が狭く非効率	2品 (R7.4月～12月) ・R7到達目標達成率：50.0% ・対前年同期比：100.0%	D	(今後の方向性) ・調理設備を使うことができることを広く周知するため、チラシを作成 ・さらなる販売体制の充実を図るため、ふるさと納税返礼品準備のための作業場の拡充を実施	1 魅力ある店舗づくりと顧客獲得の取り組み ・アンケート等による顧客のニーズの聞き取り【通年】 ・Instagramを活用した広報活動【通年】 2 品揃えの充実及び外商活動 ・商品増加のため、家庭菜園をしている方等への呼びかけ【通年】 ・販売商品数増加のため、調理設備利用希望者の発掘【通年】
	シェアキッチン を活用した 商品の数 2品 (R4)	2品	4品	5品 (R6～9累計)											

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
			指標 出发点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)		現状分析
観光	13	安芸地域の観光振興の推進 (安芸地域全域) 【実施主体】 ・〇(一社)高知県東部観光協議会 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 広域観光組織の基盤を整備し、情報発信、体験プログラムの磨き上げ、教育旅行の受入れ等を行うとともに、歴史や食、自然の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進することで、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。	観光入込数 会計年度 1月～12月 1,882,480 人 (R4)	1,853,127 人	2,429,018 人	2,429,018 人	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ・「どっぷり高知旅キャンペーン」と連動した取り組みとして商品造成支援の継続【通年】 具体的には、体験プログラムの開発等、旅行商品の造成や磨き上げに対し、補助対象を拡大しつつ支援を継続 ・国の事業を活用して引き続き“ひがしこうち”ゆずツーリズムの推進を図り、造成した商品の販売を促進【通年】 ・ペットツーリズムの推進として、協議会のHP等で紹介しているペットメニューの拡大、新たな事業者の掘り起こしを推進【通年】 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ・大阪・関西万博における県催事及び関西圏で開催されるイベントへ積極的に出展し、県外へのPRを推進 ・WEB・SNSやデジタルメディア、アナログメディアを活用した継続的な情報発信【通年】	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ・体験型観光の推進 →旅行受入事業 ①一般旅行受入：2件 ②教育旅行受入：中学校9校(うち体験のみ8校、民泊1校) →補助対象となる体験プログラムの造成等の募集開始(4月～) ①高知県東部旅行商品開発促進事業費補助金：3件交付決定 ・滞在型観光の推進 →貸切バス助成の募集開始(4月～) ①高知県東部地域周遊旅行貸切バス助成：31件交付決定 ②高知県東部地域修学旅行誘致助成：9件交付決定 ③高知県東部旅行会社視察調査助成：2件交付決定 ・地元食材を活かした食観光の推進 →①日本一の「ゆず」の香りと里山文化に包まれる宿泊・体験・食を深く楽しむ滞在型スローツーリズム事業(観光庁「地域観光魅力向上事業(販売型)」の活用) ・二次募集 採択(8/18交付決定) ・OTAサイトにて販売を開始(12月～) 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ・WEB・SNS等を活用した情報発信の強化 →HP、SNSによる情報発信：140件 ・県内・着地側での情報発信の強化(※県外での取り組み含む) →高知県観光説明会等への参加 10回 ①4/22東京、6/5福岡、9/2東京、9/10大阪、10/30名古屋 ②7/29学校向け説明会 ③8/18教育旅行モニター商談会(高知市) ④10/27四国インバウンド商談会(愛媛) ⑤11/26クルーズ船オプショナルツアー商談会(高知市) ⑥11/28クルーズ船モニターツアー(東部) →独自セールスの実施 5回 ①4/23東京、6/6福岡、9/3東京、9/11大阪、10/31名古屋 →イベント出展による情報発信等 7回、13日間 ①手づくり登り窯フェスタ in つつじ祭り(4/20、安芸市) ②ウエスタンリーグ公式戦(4/27、安芸市) ③長居植物園×高知県マルシェ(5/17～18、大阪市) ④KITTE大阪 どっぷり高知旅イベント(5/24～25、11/22～23、大阪市) ⑤EXPO2025 高知の祭典 WORLD YOSAKOI DAY(8/22～23、大阪市) ⑥第13回 高知東海岸グルメまつり&鉄道の日(10/11～12、安芸市) ⑦第一回泉大津ひつじよさこい(11/24、泉大津市) →デジタルメディア(テレビ、新聞、ラジオ、雑誌等)を活用したPR ①観光情報誌「るるぶFREE高知」での広告掲載(YouTuberを招聘した動画投稿含む)	1,389,983人 (R7.1月～9月) ・R7到達目標達成率：76.3% ・対前年同期比：99.0%	C 【成果】 ・体験型観光の推進として、6年ぶりとなる民泊による教育旅行の受入れにより、地域との交流機会が創出された。令和8年度の受入予定はないが、今後も受入家庭の維持・増加に向けて取り組む。 ・イベント出展による情報発信について、計画どおり2つの地域でのイベント(安芸市、大阪市)に出展し、県内外へのPRにつながった。 ・HPのPV数は対前年同期比で83.8%、Instagramのフォロワー増加数の対前年同期比は121.1%、増加率は151.3%となっており、イベントやSNS等での情報発信の成果によるものと考えられる。 ※参考【Instagramフォロワー数実績】 ・R6.4～R6.11の増加数811人 R6.11未時点フォロワー数3,707人 ・R7.4～R7.11の増加数982人 R7.11未時点フォロワー数5,607人 【課題】 ・目標に対しては未達だが、9月末時点の入込者数は昨年並み。冬の閑散期対策が必要 ・団体旅行受入可能な大型宿泊施設の減少に伴う圏内宿泊者数の伸び悩み 【今後の方向性】 ・団体旅行の獲得に向けたセールスや貸切バス助成の継続 ・個人旅行の着実な受入れ、宿泊者増につなげるための新たな旅行ニーズの掘り起こしと商品造成(ゆずツーリズム等)の推進及び体験プログラム付き宿泊プラン等のOTAを活用した旅行商品の販売促進への取り組み ・デジタル観光マップ「もとのふナビ」を活用した、市町村が行う周遊CPと連動した域内の周遊促進(宿泊プラン販売等) ・インフルエンサーを起用したSNS等での観光スポットやグルメ情報などユーザーに寄り添った継続的な情報発信 ・ゲストハウスや貸切宿の利用促進に向けた学習会の開催(四国南東部広域観光連携協議会事業)	1 ひがしこうち魅力創出の推進 ・「どっぷり高知旅キャンペーン」と連動した取り組みとして商品造成支援の継続【通年】 具体的には、旅行商品の造成に対する体験プログラムの助成について、支援を継続 ・国の事業を活用して引き続き“ひがしこうち”ゆずツーリズムの推進を図り、造成した商品の販売を促進【通年】 2 効果的な情報発信とセールスの強化 ・メンターゲットとなる関西圏へのイベント出展の継続による県外へのPRの推進 ・WEB・SNSやデジタルメディア、アナログメディアを活用した継続的な情報発信【通年】		
			圏内宿泊者数 会計年度 1月～12月 142,884人 (R4)	134,537人	172,038人	172,038人			125,822人 (R7.1月～9月) ・R7到達目標達成率：97.5% ・対前年同期比：130.5% ※9月末時点では「B」だが、第4四半期は閑散期に入り、通期での評価は「C」が見込まれる。		C		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
		圏内観光消費額 会計年度 1月～12月 3,248,435 千円 (R4)	3,599,498 千円	4,162,326 千円	4,245,118 千円	<p>3 下支えする基盤整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続テレビ小説「あんぱん」を誘客の追い風とできるよう、物部川エリアと連携してデジタルマップを活用した周遊キャンペーンの実施【通年】 	<p>→アナログメディア(テレビ、新聞、ラジオ、雑誌等)を活用したPR</p> <ol style="list-style-type: none"> ①道頓堀屋外サイネージ「トンポリステーション」での動画放映(4/6～R8.1/11) ②LMAGA MOOK高知への広告掲載(6月) ③中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会との連携による協賛CM放送(7月～9月) ④第72回よさこい祭り中央公園会場LEDビジョンでの動画放映(8/9～12) ⑤プロ野球2025秋季キャンプ歓迎協賛広告(11/5) <p>→販促物(ガイドブック等)を活用したPR</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ひがしこうちmine：豊浜SAへの配架(4月～) ②香香柚子：豊浜SAへの配架(4月～) <p>3 下支えする基盤整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング機能の強化 →来訪者満足度調査(WEBアンケート)の実施・分析(4月～) アンケート設置箇所：24箇所 アンケート回収数：557件 (イベント出展によるデータ収集を含む) →観光客の受入れに対する住民満足度・意識度アンケートの実施・分析(4月～) エリア内イベント出展によるデータ収集：123件 →デジタル観光マップ「ものトーボナビ」の活用 ①ごめん・なはり線を巡るデジタルスタンプラリー(R7.4～R8.3) ②芸西村を巡るデジタルスタンプラリー(9/1～12/31) ③安芸市観光デジタルスタンプラリー(10/1～R8.2/28) ④季節の花の見頃情報や、秋祭り等のイベント情報を掲載 →市町村観光担当課長会・担当者会 4/9 第1回担当者会 5/20 第1回担当課長会議 8/6 第2回担当課長会議 11/27 第3回担当課長会議 ・広域観光の推進 →四国南東部広域観光連携協議会への参画により県境を越えた一体的な観光施策を展開 ①四国南東部観光MAPの増刷 ②アムバック、トートバックの製作 ③大阪・関西万博への共同出展(8/12～13、大阪市) ④阿佐海岸鉄道DMV奈半利特別運行イベントへの出展(8/26、奈半利町) ⑤地域学習会の開催(10/15、牟岐町) ⑥阿波の狸まつり(11/1～2、徳島市) ⑦イベント用テーブルクロス製作 ⑧KITTE大阪 どっぶり高知旅イベントへの共同出展(11/22～23、大阪市) ・受入環境の整備 →公式HP(多言語)のページ更新 英語・繁体語それぞれ10件更新済み →エリアコンディションレポートのフィードバック R6.10月～R7.2月、R7.6月～9月分をフィードバック済み 	3,058,644千円 (R7.1月～9月)	・R7到達目標達成率：98.0% ・対前年同期比：115.7%	B	<p>3 下支えする基盤整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル観光マップ「ものトーボナビ」を活用した周遊促進策の推進(宿泊プラン販売等)【通年】 ・物部川エリアと連携した情報発信による誘客促進(季節の花のスポットやイベント情報等)【通年】 ・第3期広域観光振興計画の策定 	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出发点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況			
				R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状			達成 見込み (※)	現状分析	R8計画	
観光	14	日本遺産を活用した中芸地域の活性化 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村) 【実施主体】 ・◎中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会 ・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸地区森林鉄道を保存・活用する会 日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域のインバウンドを含めた交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	中芸地域 主要施設 訪問者数	507,647人	559,000人	570,000人	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・ゆずロードミュージアムの年間を通した土日開館の検討【通年】 ・拠点施設の方針検討【通年】 ・ガイド会員の技術力向上のための講座実施【5回(6月～12月)】 ・ゆずFeSやゆず収穫・搾汁体験等の体験内容の磨き上げ【ゆずFes：14プログラム(9月～11月)】 ・台湾向けミニツアーや観光商品のプロモーション ・新たなパンフレット作成やSNS活用、地域内外のイベント出展等による情報発信【通年】 ・日本遺産フェスティバル開催地域への視察【1回(10月)】 ・日本遺産フェスティバル開催案の検討【通年】 2 協議会の体制強化 ・事務局と中芸5町村の連携意識の更なる醸成【通年】 ・地域商社もしくはDMO設立の検討【通年】	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・夏休み(7/19～8/30)のゆずロードミュージアム毎日開館→254名来館 ・ガイド養成講座：5回(6/7、28、9/6、27、12/13)→延べ25名受講 ・日本遺産ガイド：12回→計150名受入(11月末) ・中芸高校の生徒を対象とした日本遺産の遺構等を散策するフィールドワーク：1回(6/12)→31名参加 ・第12回ゆずFes(12プログラム)→延べ168名参加 ・ゆずとりんてつガイド会フェスティバル：1回(5/24)→延べ39名参加 ・夏休み子ども向け企画(8/17)→16名参加 ・台湾の旅行会社との中芸周遊ツアーに関する商談：2回(11/4、12/9) ・パンフレットの刷新及び各地の文化祭等へのパネル出店 ・日本遺産フェスティバルin倉敷への視察(10/25～26) 2 協議会の体制強化 ・事務局内定例ミーティング(週1)→連携体制の強化 ・町村担当者会(月1)→日本遺産ウオーキングイベントについて、各町村ごとにルートを検討・協議をしたことによる他町村との連携強化 ・幹事会(副町長級)の開催(5/14、12/24) ・総会の開催(5/29) ・日本遺産サミット開催に向けた企画部会の発足(R7年度中) ・地域の観光・産業振興に貢献出来る協議会の体制づくりについて、民間事業者と協議(随時)	240,909人 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：103.4% ・対前年同期比：104.0%	A	(成果) ・定例ミーティングの実施等により、交流人口の拡大に向けた「夏休み子ども向け企画」が新たに立案・実施される等、中芸地域の訪問者数の増加につながっている。 (課題) ・地域内へ人を呼び込むための仕組みづくり (今後の方向性) ・誘客及び観光消費拡大に向け、台湾人インバウンド客を誘致するための旅行商品の開発及び台湾での販売 ・誘客及び観光消費拡大のための仕組みとしての、「協議会及び中芸各町村の連携」や、「協議会の地域商社化またはDMO設立」の検討	1 日本遺産を活用した地域の活性化及び交流人口の拡大 ・「ゆずFeS」の開催【1回】 ・「日本遺産ウオーキング」の開催【1回】 ・ガイドの技術力向上のための講座の開催【複数回予定】 ・ゆず収穫・搾汁体験の実施【随時(8～11月)】 ・観光商品のプロモーション【通年】 ・外国語対応パンフレットの制作 ・パンフレット、SNS活用及び地域内外のイベント出展による情報発信【通年】 ・ゆずロードミュージアムの土日開館の検討【通年】 ・日本遺産サミット開催地域への視察【1回(11月)】 ・日本遺産サミット(R9年度)開催に向けた対応【通年】 2 協議会の体制強化 ・事務局及び中芸5町村の連携強化 ・地域商社またはDMOの設立の検討【通年】

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況			
				R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状			達成 見込み (※)	現状分析	R8計画	
観光	15	<p>室戸市の観光資源を生かした交流人口の拡大・地域振興 (室戸市)</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○室戸市 ○(一社)室戸市観光協会 室戸ジオパーク推進協議会 (株)日本ドルフィンセンター NPO法人日本ウミガメ協議会 土佐備長炭窯元炭玄 スカイアンドシー・ムロト (株)East水産 民間事業者 <p>世界ジオパークに認定された室戸ジオパークやむろと廃校水族館、海の駅とろむ等の観光資源の魅力を高めるとともに、室戸市が有する自然や文化、施設等の「ウエルネス資源」を生かした持続可能な周遊・滞在型観光を推進し、交流人口の拡大を図る。</p>	<p>室戸市 主要施設 訪問者数</p> <p>集計期間： 1月～12月</p> <p>505千人 (R4)</p>	465千人	850千人	900千人	<p>1 観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設の磨き上げ 室戸岬観光拠点施設の改修工事【R8.1以降】 むろと廃校水族館の改修工事 シレストむろとの修繕工事 <p>2 ウエルネスツーリズム・サステナブルツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム、体験ツアーの造成、情報発信【通年】 <p>3 お土産品の開発・販売拡大による外貨獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> お土産品の販売、販路拡大及びブラッシュアップ【通年】 	<p>1 観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 室戸市宿泊施設調査 →株式会社リクルートへ委託して実施済み 室戸市宿泊施設魅力化支援事業費補助金により施設の改修を補助 市内周遊を促すキャンペーンを検討中 →まるっと室戸体験博の実施(9/27～11/16) →91名の参加 室戸岬観光拠点施設の改修工事 →解体工事了 →3月までに指定管理者の決定予定 むろと廃校水族館の取水管の工事実施 <p>2 ウエルネスツーリズム・サステナブルツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊コースの策定及びモニターツアーの実施 シレストむろとが機械故障により5月から臨時休業 →指定管理者を12月議会で決定予定 →修繕工事 →令和8年4月から営業再開予定 <p>3 お土産品の開発・販売拡大による外貨獲得</p> <p><株式会社East水産></p> <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー制度を活用し「室戸のおもたせ開発・発掘プロジェクト」を実施 高知県アンテナショップ・高知空港合同商談会(6月)への参加 →3商品ともまるごと高知での取り扱いが決定 (金目鯛の干物、伊勢海老出汁の炊き込みご飯の素、目鯛の生ハム) 高知県産品商談会(10月)へ参加 →新規取引先(6社)獲得 スーパーマーケットトレードショー(R8.2月)へ参加予定 新フレーバーの開発を検討 	<p>312千人 (R7.1月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：55.1% ・対前年同期比：97.9% 	D	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度(株)East水産で作った新商品(金目鯛の干物、目鯛の生ハム、伊勢エビの炊き込みご飯)のまるごと高知での取り扱いが決定した。 ・産振アドバイザー制度の活用により、事業者の営業力が向上した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の不足 ・室戸岬の観光施設における滞在時間の延長 ・むろと廃校水族館、室戸世界ジオパークセンターのさらなる魅力化 ・ウエルネスツーリズムのPR不足 ・お土産品の不足 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の磨き上げ ・室戸岬観光拠点施設の整備 ・むろと廃校水族館の改修 ・シレストむろとの修繕に係る検討 ・ウエルネスツーリズムに関する情報発信強化 ・「室戸のおもたせ開発・発掘プロジェクト」を通じたお土産品の開発、販売強化 	<p>1 観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の磨き上げ ・室戸岬観光拠点施設の改修工事(令和8年9月オープン予定) <p>2 ウエルネスツーリズム・サステナブルツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊コースの策定及びモニターツアーの実施 ・シレストむろとの営業再開【4月～】 <p>3 お土産品の開発・販売拡大による外貨獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お土産品の販売、販路拡大及びブラッシュアップ【通年】 ・新商品または新フレーバーの開発【通年】
		<p>ウエルネス関連の体験プログラム造成及び磨き上げ数</p> <p>-</p>	6件 (R6)	10件 (R6～7累計)	20件 (R6～9累計)		<p>6件 (R6.4月～R7.8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：60.0% ・対前年同期比：0% 	D				

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			R8計画
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
			加工品開発 数 1件 (R4)	7件	1件	5件 (R6~9累 計)	→参加者：26人(親子10組限定) ②海の上のご馳走体験！港で漁師と作る絶品漁師飯(11/30) →参加者：20人(20人限定) ・下山伊尾木海岸線自転車線(サイクリングロード)の設計開始 ・滞在型観光推進計画策定支援事業に係る協議(6/10、8/8、 12/26) ・安芸市観光デジタルスタンプラリーの実施(10/1~R8.2/28) →デジタル観光マップ「ものごとぶナビ」を活用した市内周遊・滞在 促進の仕組みを作成 ・新たにSNSによるイベント情報発信(8/14~)	1件 (R7.4月~12月) ・R7到達目標達成率：100.0% ・対前年同期比：14.3%	A		・積極的な情報発信(イベントの企画・開催)【通 年】	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況			
				R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状			達成 見込み (※)	現状分析	R8計画	
観光	17	東洋町における体験型・滞在型観光の推進 (東洋町、室戸市) 【実施主体】 ・〇(一社)東洋町観光振興協会 ・〇東洋町 ・地元マリンスポーツ等関係事業者 ・宿泊事業者 ・阿佐海岸鉄道(株) ・東洋町商工会 ・(一社)高知県東部観光協議会 ・室戸市 ・地域団体 サーフやダイビングを中心としたマリンスポーツやDMV(デュアル・モード・ビーグル)、野根川といった地域資源を生かした体験型観光メニューの充実、周遊プランの造成等、観光客の受入体制の強化に取り組むことにより、滞在時間の延長及び誘客促進を図る。	体験者数 5,407人 (R4)	5,767人	5,600人	5,800人	1 受入体制の強化 ・既存体験プログラムの磨き上げの検討 ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催(7月～) ・広報の強化【通年】 ・南四国アイランド活性化協議会への参加 ・東洋町納涼祭の実施【7月】 ・ビーチサッカーの開催【通年】 2 DMVを活用した観光振興 ・阿佐海岸鉄道および沿線市町村との連携 ・DMV駅弁の発売	1 受入体制の強化 ・ビーチサッカーの開催(6月) ・新たなビーチホッピング遊具の導入 ・ビーチホッピングの開催(7月～) ・ビーチホッピングのスタッフ雇用に向けた大阪体育大学への訪問 ・東洋町納涼祭の実施(7月) ・サーフィン大会の実施(8月) ・ブルーフラッグ認証取得に向けた取り組みの実施 2 DMVを活用した観光振興 ・DMV駅弁の発売(1月～) ・DMVイベントの開催(8月)	4,538人 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率：162.1% ・対前年同期比：79.3%	S	(成果) ・大阪体育大学への訪問により、ビーチホッピングスタッフの雇用が生まれた。 ・野根地区のコーディネーター候補者として、地域おこし協力隊を採用することができた。 (課題) ・ブルーフラッグ認証取得のための資金調達 (今後の方向性) ・ブルーフラッグ認証取得を目指し、国や県の補助金活用を検討	1 受入体制の強化 ・既存体験プログラムの磨き上げの検討 ・新規体験プログラムの造成 ・ビーチホッピングの開催【7月～】 ・広報の強化【通年】 ・東洋町納涼祭の実施【7月】 ・ビーチサッカーの開催【通年】 ・ビーチサッカー全国大会の開催【11月予定】 ・ブルーフラッグ認証取得に向けた取り組みの実施 2 DMVを活用した観光振興 ・阿佐海岸鉄道および沿線市町村との連携
			東洋町 主要施設訪問者数 会計年度 1月～12月 270,338人 (R4)	277,784人	300,000人	320,000人	3 野根川を活用した地域振興 ・野根川オートキャンプ場の管理・運営【通年】 ・SNS等を活用したPR【通年】 ・新たな地域資源の掘り起こし ・地域団体の活動支援【通年】 ・野根地区のコーディネーターの発掘 ・野根地区での耕作放棄地の解決に向けた取り組みの実施	3 野根川を活用した地域振興 ・野根地区のミニ88カ所巡り体験商品の販売実施 ・「ふるさと加工品グループなるかわ」町内外イベントへの参加 ・野根地区のコーディネーターの発掘 →地域おこし協力隊の採用(4月～) ・野根地区での耕作放棄地の解決に向けた取り組みの実施 →中村地区と押野地区でコスモス畑の整備を実施(9月～) ・こども食堂の開催(7月～) ・野根川あゆま祭りの開催(9月) ・野根川さくらまつりの開催(R8.3月)	169,715人 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率：113.1% ・対前年同期比：104.9%	S	(成果) ・野根川オートキャンプ場の管理・運営【通年】 ・SNS等を活用したPR【通年】 ・地域団体の活動支援【通年】 ・野根地区での耕作放棄地の解決に向けた取り組みの継続 ・「ふるさと加工品グループなるかわ」町内外イベントへの参加 ・地域団体の活動の広報強化	
観光	18	安田川アユおどる清流キャンプ場における交流人口の拡大による地域の活性化 (安田町) 【実施主体】 ・〇指定管理者((有)ダディースオピニオン) ・〇安田町 安田町の自然・体験型観光の拠点施設であるキャンプ場において、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信等を行い、安田川ファンの拡大を図るほか、キャンプ場利用者の周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域活性化につなげる。	キャンプ場 利用者数 7,607人 (R4)	4,941人	7,000人	7,000人	1 キャンプ場の磨き上げ ・スタッフ及びアルバイトの育成によるさらなる顧客サービスの向上【通年】 ・地域食材販売に向けた仕組みづくり検討【通年】 2 安田川ファン拡大に向けた仕組みづくり ・新たなイベントの企画実施、既存イベントの継続実施【通年】 ・イベント実施等の連携可能な町内外の事業者の発掘【通年】 ・SNSを活用した継続的な情報発信【通年】	1 キャンプ場の磨き上げ ・繁忙期におけるスタッフ増員 →ヘルプスタッフ1名及びアルバイト3名のローテーション ・土佐あかうし焼肉セットの販売 →約10セット販売(4月～12月) ・子供用プールの設置等、サービス品質向上に向けた取組を実施 →利用者の満足度向上 ・キャンセル料金徴収に向けた条例の改正(12月) 2 安田川ファン拡大に向けた仕組みづくり ・安田川での釣りイベント(R7開始：7月～10月)→約150名参加 ・町外事業者との連携による木工ワークショップ：3回→15組参加(11月末時点) ・Instagramの定期的な投稿→250件(4月～12月)	4,029人 (R7.4月～11月) ・R7到達目標達成率：86.3% ・対前年同期比：101.8%	B	(成果) ・繁忙期のスタッフ確保や、子供用プールの設置等のサービス品質向上、周辺事業者と連携したイベントの実施、定期的なSNSにおける情報発信等により、新たな顧客の獲得に寄与している。 (課題) ・新型コロナウイルスの5類移行に伴うキャンプ場の衰退により利用者数が減少傾向 ・キャンプ場の多くの利用者から「中芸」を初めて知ったとの声が寄せられる等、知名度の向上 ・キャンセル料金を徴収しない規定であることに伴い、天候や自己都合によるキャンセルが多く収入の機会損失が発生 (今後の方向性) ・利用者数の増加に向けて、魅力的なサービスの提供、イベント等の開催を継続・強化し、利用者のリピート率を高め、またその取り組みをSNSで発信し新規層へアプローチを実施 ・「中芸」の知名度向上を図るための、大規模アウトドアイベントの開催に向けた検討 ・キャンセル料金徴収開始	1 キャンプ場の磨き上げ ・ゆず収穫・絞り体験等の新たなイベントの造成及び既存イベントの継続【通年】 ・キャンプ場の新メニューの導入等の利用者満足度向上に向けた検討【通年】 2 安田川ファン拡大に向けた仕組みづくり ・安田川漁協と連携した「アユ釣り体験」の実施の検討【通年】 ・民間事業者と連携したイベントの開催【通年】 ・SNSを活用した継続的な情報発信【通年】 ・「中芸」の知名度向上のための大規模アウトドアイベントの検討【通年】

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】	
				R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況				R8計画
				R7計画	R7取り組み状況	R7到達目標 に対する現状			達成 見込み (※)	現状分析			
観光	19	北川村観光3施設を核とした交流人口の拡大 (北川村) 【実施主体】 ・◎(株)きたがわジャルダン ・◎北川村 ・(一社)北川村文化観光公社 ・NPO法人中岡慎太郎先生顕彰会 ・北川村北部地区「いこいの里」の会 北川村「モネの庭」マルモッタン、北川村温泉、中岡慎太郎関連施設及び北部地区いこいの里に関する情報発信の強化や、施設間の連携、体験メニューの実施等に取り組むことにより、集客力を高めて、交流人口の拡大を図る。	3施設合計 入園(館)者 数 110,164人 (R4)	111,589人	105,600人	111,000人	1 情報発信の強化 ・SNS等を用いた情報発信やイベント等への出店によるPRの継続【通年】 ・研修会への参加やアドバイザーの活用検討 2 運営体制の強化と施設の磨き上げ ・人材確保に向けてふるさとワーキングホリデー等の活用を検討 (北川村温泉での実施調整予定) ・モネの庭修繕計画の実施 3 周遊の仕組みづくりと体験観光の強化 ・記念事業(モネの庭25周年)の計画・実施(モネの庭25周年記念グッズ販売、記念イベント等)【通年】 ・施設間の連携 ・体験メニューの検討・造成	1 情報発信の強化 ・SNSを活用した定期的な情報発信 →出店イベントや村内施設情報を随時更新 →観光公社職員による定期投稿を開始(R7.4~) ・長居植物園「EXPOよさこい2025×高知県マルシェ」出展(5/17~18) ・「高知フードトリップ〜乾杯！土佐宴会開宴〜」出展(6/18~23) ・大阪・関西万博「WORLD YOSAKOI DAY」参加(8/22~23) ・「第48回 阿波の狸まつり」出展(11/1~2) ・きたがわマルシェ(高知市、鳥屋書店)の開催(10/12) 2 運営体制の強化と施設の磨き上げ ・(一社)北川村文化観光公社の運営開始(4/1) ・北川村温泉 ワーキングホリデー実施(7/1~R8.3/31) ・モネの庭を拠点とした文化観光推進事業(文化庁)の認定(8/8) →令和7年度交付決定(10/16) 駐車場拡大、花の庭リニューアル、園内放送の拡充(R7.11~R8.2) 北川村温泉へのモネの庭コーナー設置、モネの庭調査研究の実施(R7.11~) 3 周遊の仕組みづくりと体験観光の強化 ・モネの庭 25周年開園記念日(4/19) ・モネの庭 25周年写真集出版記念写真展(4/19~5/31) ・モネの庭 新チーフガーデンと巡る季節のガイドツアー〜開園25周年特別企画〜(年4回)の実施 ・モネの庭 「きたがわモネさん」ラッピング車両お披露目式(6/19) ・モネの庭 高知県旅館ホテル生活衛生同業組合を通じた宿泊者入園引換券割引の導入(R7.4~) ・中岡慎太郎館 モネの庭半券キャンペーン(R7.5~) ・中岡慎太郎生誕祭(4/13) ・中岡慎太郎館 どっぷり高知旅「行くで！ウィークDAY！高知平日キャンペーン」参加(R7.10/1~R8.3/31) →平日入館料100円引き ・いこいの里 苔玉づくり体験 →利用者数：2組(R7.11月時点) ・北川村温泉 レンタサイクル →利用台数：7台(R7.11月時点) ・北川村ゆずがらメラー実施(R7.9/1~R8.2/28) →台紙配布数：1,000枚	101,829人 (R7.4月~12月) ・R7到達目標達成率：128.6% ・対前年同期比：104.8% ※12月末時点では「S」だが、12月~2月はモネ休園のため、年度末にかけ少し減少する見込みである。	A	(成果) ・モネの庭では25周年記念企画が複数実施され、年度前半のほぼすべての月において前年同月比より入園者数が増加した。 ・村内施設の半券キャンペーンやグルメラリーの実施等、周遊の取り組みが実施されており、交流人口の増加への寄与が見込まれる。 (課題) ・各施設の人材確保 ・施設間連携の強化 ・記念事業にて増加した交流人口の維持・拡大 (今後の方向性) ・ワーキングホリデーの継続実施 ・周遊事業イベントの実施及び磨き上げ ・各種企画やイベントを活かした情報発信 ・文化観光推進事業への産振補助金(外部人材活用支援事業)の活用	1 情報発信の強化 ・SNS等を用いた情報発信やイベント等への出店によるPRの継続【通年】 ・研修会への参加やアドバイザーの活用検討 2 運営体制の強化と施設の磨き上げ ・人材確保に向けたふるさとワーキングホリデーの継続的な実施 ・モネの庭修繕計画の実施 ・モネの庭文化観光推進事業の推進【通年】 3 周遊の仕組みづくりと体験観光の強化 ・施設間の連携 ・体験メニューの検討・造成	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】			R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			【P(Plan)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標			R9目標	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
										R7到達目標 に対する現状		達成 見込み (※)	現状分析
観光	20	自然や歴史・文化を活用した山と暮らす馬路村の観光振興 (馬路村) 【実施主体】 ・◎馬路村 千本山や安田川等の自然資源、魚梁瀬森林鉄道や山村の暮らし等の歴史・文化を活用した観光コンテンツを開発し、既存の観光資源と連携した村内への誘客と観光消費額の拡大を図る。	観光客 入込数 会計年度 1月～12月 33,379人 (R4)	27,391人	37,159人	37,902人	1 受入体制の充実・強化 ・馬路村観光基本構想に基づく施設整備等の検討 ・観光情報等のDX化に向けた検討 ・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合を活用した人材の確保 2 観光コンテンツの開発 ・馬路村観光基本構想に基づくスポーツフィッシングの実施に向けた検討 ・冬期釣りの実施に向けた特別採捕調査の実施 3 情報発信の強化 ・SNSを活用した情報発信 ・イベント会場での動画を用いた観光PR【1回】	1 受入体制の充実・強化 ・馬路村観光基本構想に基づく施設整備等について住民を対象とする説明会の開催：3回 →関係団体から基本構想の進め方について意見をもらい、今後の展開の仕方について検討を実施 ・ふるさとワーキングホリデーによる人材確保 →4名受入れ(温泉3名、キャンプ場1名(R7.11月時点)) 2 観光コンテンツの開発 ・馬路村観光基本構想に基づくアマゴの冬期キャッチ&リリースを解禁(10/1) 3 情報発信の強化 ・YouTuberや芸能人による移住・観光PRの実施 →11月撮影完了、12月～R8.3月配信・放送予定 ・よさこい祭り中央公園演舞場で観光CMを放送し来場者に馬路村の観光をPR(8/10～11)	23,288人 (R7.1月～9月) ・R7到達目標達成率：83.6% ・対前年同期比：125.9%	C	(成果) ・ふるさとワーキングホリデーを活用し、繁忙期の観光施設の人員確保につながった。 ・よさこい祭りで観光CMを放送する取り組みによって観光客の馬路村の観光拠点施設である馬路温泉や観光資源である千本山等の認知につながった。 (課題) ・情報発信の強化 ・観光施設の老朽化	1 受入体制の充実・強化 ・馬路村観光基本構想に基づく施設整備等の検討 ・ふるさとワーキングホリデーや特定地域づくり事業協同組合を活用した人材の確保 2 観光コンテンツの開発 ・YouTuberや芸能人の撮影スポットの聖地化	
主要販売 拠点売上高 会計年度 1月～12月 42,438千円 (R4)	47,104千円	50,031千円	53,074千円	38,775千円 (R7.1月～10月) ・R7到達目標達成率：93.0% ・対前年同期比：106.9%	B	(今後の方向性) ・SNSを用いた情報発信 ・YouTuberや芸能人による移住・観光PRのさらなる推進 ・アマゴの冬期釣り場の案内看板の整備	3 情報発信の強化 ・SNSを活用した情報発信 ・YouTuberによる情報発信						

2 令和7年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取り組み	事業概要	総事業費 (補助金額)
<p>■No. 9 なはりの郷を核とした特産品の販売促進と体験型観光の推進</p> <p>※ステップアップ事業</p> <p>7/3 交付決定</p>	<p>・奈半利駅舎物産館「無花果」のリニューアルに向けた基本計画を作成する。</p> <p>市場・トレンド調査</p> <p>販売計画・収支計画作成</p> <p>ゾーニング図作成</p> <p>町内周遊プラン作成</p>	<p>3,989</p> <p>(1,964)</p>